

久我山五丁目二番出土無頭石棒



〔指定年月日〕平成一二年二月二二日  
〔種別〕有形文化財（考古資料）  
〔名稱〕久我山五丁目二番出土無頭石棒  
〔点数〕一点  
〔所有者等〕杉並区教育委員会  
〔所在地等〕阿佐谷南一―一五―一

## 久我山五丁目二番出土無頭石棒

本資料は、昭和四五年（一九七〇）から翌四六年にかけて、久我山五丁目二番一三号で行われた健保会館富士見ヶ丘寮の建設工事の際に、縄文土器片と伴に出土したと伝えられている石棒である。

本資料は、長さ九一・〇cm、最大幅一五・五cm、重さ三二・四kgを測り、緑泥片岩を粗く成形した後に研磨して作られている。また、伴に出土した土器片が縄文時代中期末に比定されることから、本資料も同時期のものと考えられる。

石棒は縄文時代に行われていた祭祀に用いられたと考えられている遺物であり、中部・東日本から多く出土している。縄文時代前期に出現、中期には大形化、そして後・晩期には小形化する傾向が認められ、縄文時代の終焉とともに姿を消す。

石棒を用いた祭祀は火との関わりの強さが認められているほか、広く生産関係の祭祀に使用されていたものと考えられている。

本資料は、杉並区内から出土した石棒の中では最大の大きさであり、石棒を用いた縄文時代の祭祀を研究していくうえで貴重な資料である。

### 【文化財所在地】

